



基本政策

01

生命を守り生き生きと暮らすことができるまちづくり

地域包括ケアシステム構築の推進

誰もが住み慣れた地域や自らが望む場で安心して暮らし続けられるしくみづくりのため、顔の見える関係づくりや、効果的な情報発信などを通じた意識づくりの取り組みを進めています。



『顔の見える関係からのつながり』をつくることを目的に開催されている「よこち市」

災害に強いまちづくり

市民の災害死ゼロを目指し、建築物等の耐震化や消防力の総合的な強化など災害に強いまちづくりを進めるとともに、地域の防災訓練の支援や市民の防災意識を高める取り組みを進めています。



防災訓練の様子

インタビュー



80 KAWASAKI Root of 99
メイフェアパークス 防災協議会 会長 石塚 俊美

ここで暮らしていると、災害時の行政の対応が機能的で、避難所の設置や情報伝達が素早く行われるのが、素晴らしいと感じます

メイフェアパークスは、6棟547世帯が暮らす高津区にあるマンションです。私たちの防災協議会では、初期消火訓練やAEDによる心肺蘇生方法の実習など、住民参加型の訓練の他、コロナ対策のオンライン会議なども行っています。昨年11月の「安否確認訓練」には、全世帯の82%が参加し、防災意識の高まりを実感しました。自治会で開催している夏祭りや餅つきのように、防災訓練も子どもたちが楽しんで参加できる工夫を考えています。

交通安全対策の推進

交通事故の防止に向け、行政、交通安全関係団体、警察、市民等と協働・連携し、「交通事故のない安全で住みよい社会」の実現を目指した取り組みを進めています。



交通安全教室の様子



JR南武線武蔵小杉駅ホームドア

関連するSDGsのゴール



さいこう みんなでつくる 最幸のまち かわさき

川崎市総合計画

私たちのまちのさまざまな所で、市の取り組みが行われています。

川崎市がどのようなまちを目指しているのか、そのために各取り組みをどのように進めていくのかは、「総合計画」に基づいています。さまざまな取り組みの中から、私たちの生活にとっても身近なものを一部ご紹介します。



SDGsと総合計画

持続可能な開発目標 (SDGs (エスディーゼーズ)) は、平成27 (2015) 年に国連サミットで採択された世界共通の目標で、令和12 (2030) 年までの達成を目指す17のゴールが掲げられています。

川崎市は、SDGsの達成に向けた取り組みを積極的に進める「SDGs未来都市」として国から選定されており、川崎市総合計画に基づいて行われる各取り組みを通じて、SDGsのゴールの達成を目指しています。

次ページから、総合計画に基づいて川崎市がどのような取り組みを進めているのか、それはSDGsのどのゴールにつながっているのか、ご紹介しています。



川崎市総合計画



川崎市のSDGsの取り組み

さいこう 「最幸」とは

川崎を幸せの溢れる「最も幸福なまち」にしていきたいという思いを込めて使用しています。

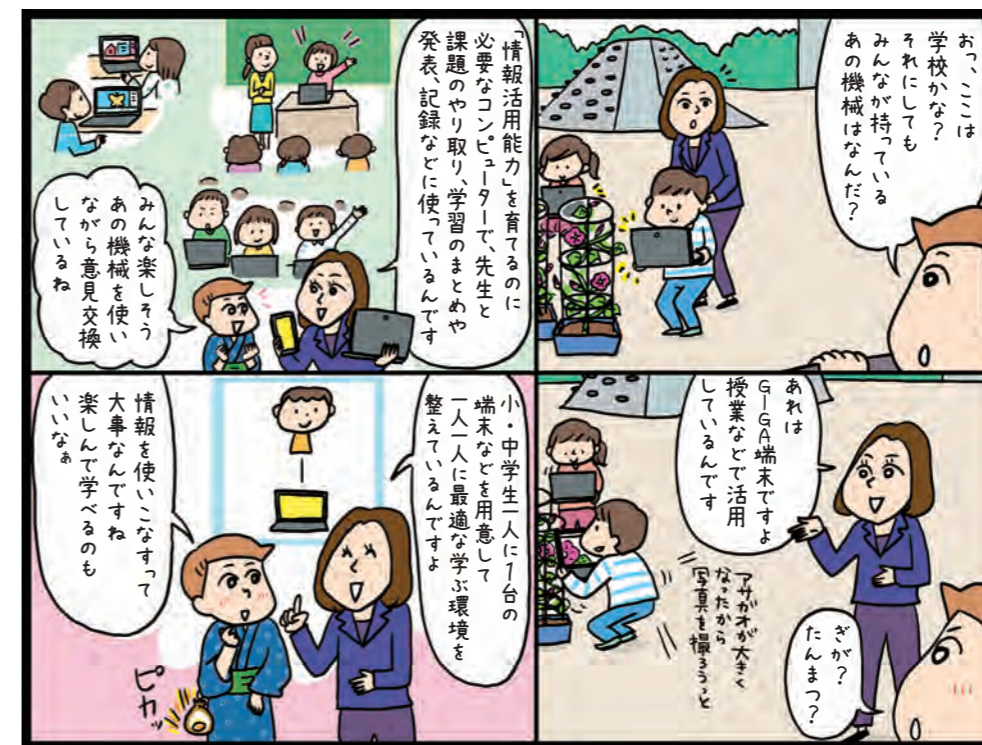
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



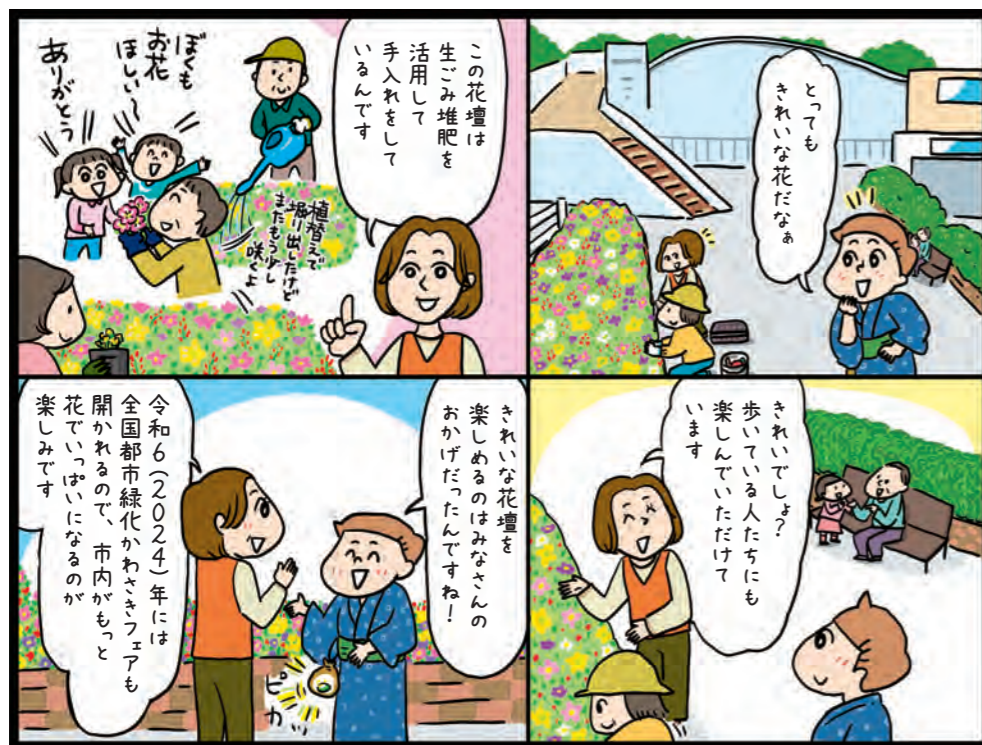
川崎市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

川崎市は「SDGs未来都市」です

子どもを安心して 育てることのできる ふるさとづくり



市民生活を豊かにする 環境づくり



地球温暖化対策の推進

2050年の脱炭素社会の実現に向けて、脱炭素モデル地区「脱炭素アクションみぞのくち」などでさまざまな脱炭素の取り組みを進め、市民の行動変容を促進しています。



脱炭素アクションみぞのくち広場

魅力ある公園緑地などの整備

誰もが利用しやすい魅力ある公園づくりを進めるとともに、市制100周年を迎える令和6年度に開催する「みどりで、つながる。みんなが、つながる。」をテーマとした市民総参加型の全国都市緑化かわさきフェアを契機に、多様なみどりを活用した取り組みを進めていきます。



富士見公園再編整備イメージ

緑地の多様な利活用の推進

良好な自然環境を次世代に引き継ぐため、王禅寺四ツ田緑地等において、自由に遊べるプレーパークなどの利活用をきっかけに、市民が保全に関わる活動に参加するなど、利活用と保全の好循環の創出に向けた取り組みを進めています。



四ツ田わんぱくの森

ごみの減量化・資源化の推進

地球環境にやさしい持続可能なまちの実現を目指し、ごみの減量化・資源化に取り組んでいます。また、「かわさきプラスチック循環プロジェクト」を設立するなど、プラスチック資源循環の取り組みを強化していきます。



かわさきプラスチック循環プロジェクト

インタビュー



花壇に咲く花を指さしながら、「これは何色？」と小さな子どもに色を教える家族の光景に心が温まります

82 小田急多摩線はるひ野駅南口ロータリーの花壇を、40代～80代のメンバー20名ほどで手入れをしています。家庭の生ごみを堆肥化する講座の受講生が10年前に会を立ち上げました。花壇のデザインや苗の選定、手入れなど、きっちりと役割分担をするのではなく、メンバーが互いに緩やかに協力合って活動しています。近隣の教育施設が水を提供下さったり、通りかかると「いつもありがとう」「癒やされます」と声をかけていただいたり、たくさんの人に支えられて、これからも楽しみながら続けていきます。

はるひ野町内会
エコガーデンはるひ野 代表
相馬 直子

質の高い保育・幼児教育の推進

保育所整備や認定こども園への移行など、多様な手法により保育受入枠の確保に努めるとともに、保育・子育て総合支援センターを中心として、地域における保育の質の向上に取り組んでいます。



保育園における子どもたちの様子

学校施設の更なる有効活用の推進

地域ぐるみで子どもの育ちを支えるしくみづくりを目指し、学校の特別教室などを地域の人に利用してもらった「Kawasaki教室シェアリング」や、子どもたちが校庭で自由に遊べる「みんなの校庭プロジェクト」などの取り組みを進めています。



校庭開放の様子

「生きる力」を伸ばし、人間としての在り方生き方の軸をつくる教育の推進

「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」の実現に向けて一人1台の端末を活用する「かわさきGIGAスクール構想」など、教育活動の充実に向けた取り組みを進めています。



かわさきGIGAスクール構想の取り組み

子ども・若者の挑戦を後押しする事業の推進

世界で活躍できる人材の育成を目的に、新しいことに挑戦する力を培う場となる「かわさきジュニアベンチャースクール」を開催するなど、子ども・若者が、さまざまな分野において活躍できるよう、新たな一歩を後押しする事業を進めています。



かわさきジュニアベンチャースクール

インタビュー



川崎は子どもたちが増え続けていて、児童と商店街がコラボするなど活気に満ちています

81 川崎市立旭町小学校
校長
青木 あゆ子

GIGA端末の導入で教育は大きく変わっています。今では授業中の机には教科書と鉛筆、GIGA端末が当たり前にならなくなりました。英語の授業では、子どもたちのスピーキングを各自が録画して提出し、先生が発音や理解度を見取るなど、個別最適な学習を目指しています。また、子どもたちが学んだことを、卒業生や地域の人たちに発信し、Webアンケートするなど、活用は多岐にわたります。このツールを通して、Society5.0^(※)の時代を生きる子どもたちへの教育が進んでいます。

※サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムによって開かれる未来社会のこと

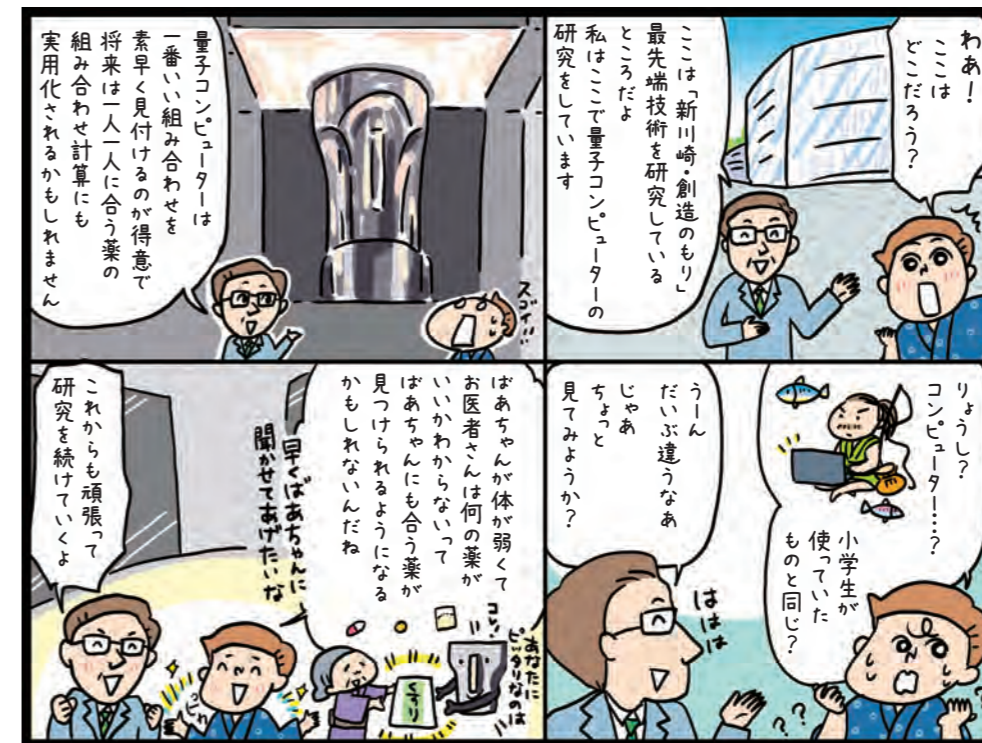
関連するSDGsのゴール



関連するSDGsのゴール



活力と魅力溢れる 力強い都市づくり



インタビュー



南武線沿いに集積するIT系企業はまるでシリコンバレー。川崎は日本のITを支えています

慶應義塾大学 理工学部 教授
83 天野 英晴

アジアで初めて、ゲート型商用量子コンピューター「Kawasaki」が令和3年7月、新川崎・創造のもり(幸区)に設置されました。私の研究のひとつの柱は、この量子コンピューターになじみのなかった企業に対して、共同研究の足場を作ることです。量子コンピューターを取り巻く研究は発展途上で、まだまだ多くのブレイクスルーが必要です。しかし研究が進むことで、金融や創薬、材料開発、人工知能など、非常に幅広い分野での活躍が期待されています。

科学技術を活かした 研究開発基盤の強化

ナノ・マイクロ技術を核とした産学連携による研究開発や、量子コンピューティング技術の普及・発展に向けた企業や研究機関の参画促進など、オープンイノベーションの推進に向けた取り組みを進めています。



IBM Quantum System One [Kawasaki] 出典：日本IBM

若者文化の発信による まちづくりの推進

ブレイキンやダブルダッチ、スケートボードなどの若者による文化を活用し、本市の「若い人が多い」「若者による文化が盛んである」という特徴を踏まえ、若い人が集い、自らの可能性を広げるための環境づくりを進めています。



LeFRONT杯

臨海部の持続的発展と日本の 成長を牽引する戦略拠点の形成

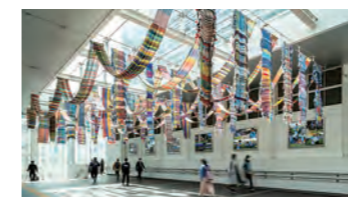
国際競争力を有し、日本経済の発展を牽引する高度な産業が集積する川崎臨海部の持続的発展を推進するため、「臨海部ビジョン」に基づき企業と協働でさまざまなプロジェクトを推進しています。



ナノ医療イノベーションセンター (ICONM) における、多様な分野の研究者の交流の様子

文化芸術活動の振興

誰もが気軽に文化芸術に触れ、楽しさを感じることができるよう、市民が活動に参加しやすい環境づくりを進めるとともに、市民、文化団体などの多様な主体と協働・連携しながら文化芸術活動の振興に向けた取り組みを進めています。



アートでまちと人がつながる「Kawasaki Saori Art」

誰もが生きがいを持てる 市民自治の地域づくり



インタビュー



「またくるね」と元気づけようとする子どもたち。この風景がいつまでも続くといいな

ティダズハウス TIDA's house 管理人
84 小川 淳

宮前区野川にある空き家を改築し、子どもから大人まで誰でも集まれるコミュニティスペースを運営しています。改築に携わった人たちは、ここを誰もが笑顔になれる「居場所」にするという夢を、今も共有しています。ふらりと立ち寄った見知らぬ人同士に、新たな交流が生まれるのを目のあたりにすると、わくわくします。生まれ育ったこのまちで、これからもいろいろな人を見守り続けていきたいです。

かわさきパラムーブメントの 推進

共生社会の実現に向け、「誰もが自分らしく暮らし、自己実現を目指す地域づくり」を目指し、市民、企業、団体などと連携して「かわさきパラムーブメント」の取り組みを推進しています。



「障害の社会モデル」を体験して学べるバリアフリーレストランの様子

「参加と協働による地域課題の 解決の新たなしくみ」の構築

「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づき、誰もが気軽に集える地域の居場所「まちのひろば」や、地域の人や団体をつなぎ、さまざまな取り組みを支援する「ソーシャルデザインセンター」の創出を進めています。



まちのひろばフェスの様子

差別のない人権尊重の まちづくりの推進

さまざまな差別をなくし、ダイバーシティ(多様性)が尊重される地域社会の実現に向けた取り組みや、多様な文化的背景を持つ外国人市民が共に生きる社会の実現に向けた取り組みを推進しています。



川崎市外国人市民代表者会議

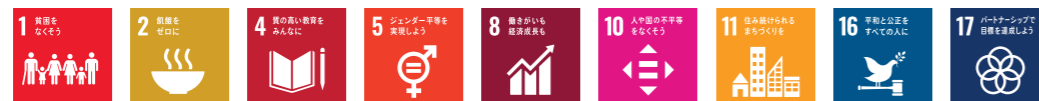
市民目線に立った行政サービスの を総合的に提供する区役所

新型コロナを契機としたライフスタイルの多様化や非対面・非接触型のサービス提供など、社会環境の変化に応じながら、市民感覚を大切に現場起点の継続的な行政サービスの向上に取り組んでいます。



区役所の窓口の様子

関連するSDGsのゴール



関連するSDGsのゴール

